

# 2026(令和8)年 技術科教員指導能力認定試験（二次試験）要項

一般社団法人日本産業技術教育学会

## 1 目的

技術科教員指導能力の認定にあたり、一次試験を合格した者に対して「授業を展開し、生徒を指導する力としての技能」を測定するための模擬授業を実施する。

## 2 受験資格等

一次試験を合格した者。なお、受験資格は、一次試験を合格した年度を含め3年間有効とする。

(例) 大学2年次に一次試験を合格した場合、4年次まで受験資格を有する。

## 3 実施方法

①実施日：2026年3月2日(月)～3月13日(金)

②実施方法：受験者の所属する大学・学校を使用すること。

③実施内容：中学校技術・家庭科（技術分野）の中から受験者が自由に授業内容を選択して、想定した50分の授業の中から8～9分程度模擬授業を行い、それをビデオ撮影する。また、模擬授業を行う際、持参した教材・教具を使用しても良い。なお、準備できなかった教材・教具についても、あるものとして授業を行っても良い。（下記の授業方法を参照）受験者は事前に下記に示した形式で「授業計画書」をA4用紙1枚にまとめ提出する。模擬授業の様子をビデオに撮影し、大学の場合は担当職員が、大学以外の学校の場合は受験者本人が、指定された方法で提出する。

④授業方法：

○生徒がいる教室を想定し授業を行う。ただし、実際には生徒はいない状態で行う。

（例：「これは何という道具ですか？」「・・・」「そうです。かんなですね。」）

○教材・教具の使用を想定した授業を実施してもよい。

（例：「先生が手に持っているのが両刃のこぎりです」と説明するが、手には何も持たないで授業を行う。）

○板書は必ず行うこと。その際は、黒板又はホワイトボードを使用すること。

⑤ビデオ撮影の方法

○授業者と板書が常に入るアングルで撮影を行う。

○板書の文字や図が読み取れるように撮影を行う。

○授業者の発問や指示の声が聞き取れるようにする。

○授業に先立ち、授業内容等の説明を行う。

（授業内容等の説明の例）

受験番号〇〇の、〇〇大学（所属）等の、〇〇（名前）です。

〇〇についての授業を行います。

この授業は、〇〇を50分で教えることを目的としています。

先ず導入部では、〇〇を行い、展開部では〇〇を行います。そして、まとめでは、〇〇を行う授業を想定しています。

それでは、展開部の〇〇の授業を行います。

※授業内容等の説明は1～2分程度。

※以後、授業を8～9分程度で行う。

⑥ビデオの提出方法

○一次試験合格後にメールアドレスに送信される、授業計画書・模擬授業映像の提出方法をご確認ください。

⑦評価方法・評価基準：

- 技術科教員指導力認定試験委員が、模擬授業のビデオを視聴し、5つの評価項目について4段階（1点：劣る、2点：やや劣る、3点：概ね良好、4点：大変良好）による評価を行う。
- 5つの評価項目の平均値が3点以上（合計が15点以上）を合格とする。なお、「授業計画書」は、これらの項目を評価する場合の参考に使用する。

⑧評価項目：評価項目①②③④⑤を評価する。各評価項目の下に示した『・』は評価項目の具体例であり、具体例の全てを満たさなくとも良い。

①学習意欲の喚起

- ・学習の動機づけ（興味・関心・意欲）や学習課題（めあて）の設定がなされている
- ・学習に取り組む心構えをつくっている
- ・学習者に積極的な反応を促すための言葉（問い合わせ、賞揚）を効果的に使っている

②学習指導

- ・学習指導要領（教科書）に則った基本的な事項（ねらい）を押さえている
- ・学習内容や量が適切である
- ・生徒の実態と合った難易度である（中学生を想定）

③発問・説明・指示の仕方

- ・声の大きさ、話すスピード、言葉の選び方が適切である
- ・思考の広がりや深まりを引き出すような発問が工夫されている
- ・説明や指示が明確で一貫しており、授業者の意図が学習者に的確に伝わる

④非言語的手法（身振りや動作・表情）

- ・表情、身ぶり、手ぶり、体の動き、視線によるなげかけ等が適切である
- ・授業者の意図を効果的に伝えている
- ・学習者の反応を温かく受けとめている

⑤板書の仕方や教材・教具の使い方

- ・見やすく、分かりやすいように工夫された板書である（要点の明示、文字の丁寧さ・大きさ・色、文字や図の配置、量）
- ・教材・教具の使用意図が明確で、効果的に活用されている
- ・教具の使用意図が明確で、効果的に活用されている

#### 4 結果の通知

二次試験を受験した者に対し、4月上旬から中旬に二次試験の合否結果を連絡する。また、二次試験を合格した者には、技術科教員指導能力認定試験合格の認定証を授与する。

二次試験の問い合わせ先

技術科教員指導能力認定試験事務局  
[mail: nintei2026@jste.jp](mailto:nintei2026@jste.jp)

《授業計画書のフォーマット》

受験番号		氏名	
------	--	----	--

1. 題材の目標

2. 授業の流れ (50

分) 導入 :

展開 :

まとめ :

2. 模擬授業の指導計画 (8 ~ 9 分程度)

学習活動	指導の視点 (留意点)

2024 年 技術科教員指導能力認定（二次試験）評価票

受験番号		氏名	
------	--	----	--

(1 点：劣る 2 点：やや劣る 3 点：概ね良好 4 点：大変良好)

評価項目	得点
①学習意欲の喚起 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の動機づけ（興味・関心・意欲）や学習課題（めあて）の設定がなされている</li> <li>・ 学習に取り組む心構えをつくっている</li> <li>・ 学習者に積極的な反応を促すための言葉（問い合わせ、賞揚）を効果的に使っている</li> </ul>	
②学習指導 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導要領（教科書）に則った基本的な事項（ねらい）を押さえている</li> <li>・ 学習内容や量が適切である</li> <li>・ 生徒の実態と合った難易度である（中学生を想定）</li> </ul>	
③発問・説明・指示の仕方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 声の大きさ、話すスピード、言葉の選び方が適切である</li> <li>・ 思考の広がりや深まりを引き出すような発問が工夫されている</li> <li>・ 説明や指示が明確で一貫しており、授業者の意図が学習者に的確に伝わる</li> </ul>	
④非言語的手法（身振りや動作・表情） <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 表情、身ぶり、手ぶり、体の動き、視線によるなげかけ等が適切である</li> <li>・ 授業者の意図を効果的に伝えている</li> <li>・ 学習者の反応を温かく受けとめている</li> </ul>	
⑤板書の仕方や教材・教具の使い方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 見やすく、分かりやすいように工夫された板書である (要点の明示、文字の丁寧さ・大きさ・色、文字や図の配置、量)</li> <li>・ 教具の使用意図が明確で、効果的に活用されている</li> <li>・ 多様な学習活動が展開され、学習効果を高めている</li> </ul>	
〈特記事項〉	合計得点
	合否判定

合格  
・  
不合格